

学校の授業や支援に使える

教材・教具アイデア集

第11集

2019年12月発行

山梨大学教育学部附属特別支援学校 編

発刊によせて

本年も、教材教具集をお届けいたします。

この教材教具集も、号をかさね今年で 11 号になりました。1 号から重ねると相当の厚さになります。

実を申し上げますと、昨年、初号から 10 号までを出版社に差し上げたところ、書籍化の提案がありました。国立大学教員養成課程が縮小の方向にあり、附属学校園も何らかの特色を持たないと、大げさに言えば「生き残れない」状況ですので、一つの大きなチャンスとなります。本年度は、残念ながら、初号の発案をしてくださった先生が、新設校の準備室長になり多忙を極めていることや、現在文科省も進めている、教員の「働き方改革」もあり、なかなか進みませんでしたが、近いうちにはと思っております。

特別支援学校の教材教具の様々なアイデアはインターネットで検索すれば、かなりの数を見つけ出すことができます。その中には、しっかり理論づけられた、システムティックな教材や、最新の VR、AR 技術を利用した教材や、それらを含め活用した ICT 教材もあります。

私どもの提案する教材は、そういった教材とはおそらく方向性が異なります。長い間、教室の中で、当たり前前に存在していた、経験的に効果や安全性が認められたものであったり、時代が変わっても、子ども達が興味を持ち続けているものです。また一方では、特定の行動問題や、その子の成長を妨げている、固執性をもたらすものから、より発展性のあるものへの移行を促す教材もあつたりします。つまり、先生方が日頃の教育で感じている、「今ここでのあと一つの工夫」を具体化したものがほとんどになります。そしてそれらは長年の使用経験をとおして、教材そのものや、使い方が洗練されたものになっているはずです。

本書を読まれる方は、単に形や構造だけを利用するのではなく、そうした先生方の日頃の教育にも思いをはせてください。そして、それが子どもたちのどういった部分に働きかけるかを明確に認識して、その際の提示や利用の仕方についてもご自分なりに工夫してみてください。その過程の中でお気づきの点（特に安全性など）がありましたら、ぜひ私どもにお知らせください。

教材、教具は作って、利用して終わるものではありません。それを使う視点や使い方等を工夫して使い続けることで、より有効な教材・教具になっていきます。

私たちは本書を発行することで、一つの形と使い方を提示したにすぎません。これをさらに発展、有効に利用していくのは読者の方々です。単純な木のブロックであろうが、有効なプログラムが入ったタブレットや視聴覚教材であろうが、そこに「完成」はありません。このことをご理解の上、本書を利用してくださることを切に願っております。

令和 1 年 12 月

山梨大学教育学部附属特別支援学校

学校長 小畑 文也

目次

○発行によせて ----- 校長 小畑 文也

理論編

- ・情動調性と教材・教具を考える Ver. 2 ----- 吉井 勘人 1
— 子どもの発達における情動調整の役割 —

実践編

○ 日常生活の指導で使える教材・教具

- ・嘸む回数を増やすための支援 ----- 深澤 光雄 4

○ 課題学習，国語，算数（数学）で使える教材・教具

- ・動物のカウンティング・ボックス ----- 佐藤 大和 5
- ・がんばりの木 ----- 岸本 美加 6
- ・時計の学習サポートグッズ ----- 大脇 知恵 7
- ・楽しみながら数に親しもう ----- 雨宮 史歩 8
- ・お金の学習 ----- 木村 千里 9
- ・ひらがな・カタカナ・漢字 マッチング ----- 森 秀昭 10

○ 音楽で使える教材・教具

- ・パネルシアター ----- 前島 美香 11
- ・鑑賞感想ワードシート ----- 石倉 礼子 12

○ 図画工作，美術で使える教材・教具

- ・風鈴を作ろう ----- 日向 美佳 13

○ 体育，保健体育で使える教材・教具

- ・カタカタ腕振り棒 ----- 波多野 浩史 14

○ 職業・家庭で使える教材・教具

- ・写真で分かる調理手順表 ----- 中島 香奈 15
- ・〇〇ロボットを動かそう ----- 村田 浩樹 16

○ 生活単元学習で使える教材・教具

- ・校外学習「ハーブ庭園へ行こう」 ----- 岸本 幸子 17
- ・食券を買おう！ ----- 土屋 秀一 18
- ・元気メダル ----- 浅川 公子 19
- ・山梨の電車を知ろう ----- 武藤 宏子 20
- ・特別行事の予定カード ----- 波多野 浩史 21
- ・助詞を含んだ三語文の指示理解を促す視覚的の手がかり ----- 青木 雄一 22

○ 作業学習で使える教材・教具			
・かんたん、めくり手順表 -----	花形 章	23	
・ボール盤用 車輪切り出しサポートグッズ -----	近藤 光彦	24	
○ 特別活動で使える教材・教具			
・生活安全学習・防災学習（デジタル教材） -----	志村 美和	25	
・先生の話きっかけ文字めくりフリップ -----	守木 智	26	
○ 自立活動で使える教材・教具			
・お知らせチャイム -----	笠井 香	27	
・癒しの3点 -----	青嶋 由美	28	
・書見台（視覚支援サポートグッズ） -----	大脇 知恵	29	
・みんなで作る予定表 -----	小崎 由加里	30	
○ 山梨大学「障害児教育教材研究」受講学生作成教材			
・はめてびっくり！魔法のボタン -----	植松 渚	31	
・カラフルぺったん -----	大出 千夏	32	
・型はめ1日スケジュール -----	岡部 育徳	33	
・お金の計算をしよう -----	佐藤 明日香	34	
・お金を正しく数えて商品を買おう -----	棚田 朱音	35	
・うごきのことば名人 -----	丹澤 舞	36	
・わくわく新幹線 -----	戸室 夏海	37	
・どのくらい時間がたったかな？ -----	森本 章	38	
・カラフルちびTシャツ -----	矢野 芙佑華	39	
・大きな声で「あ、い、う、え、お」 -----	柚原 明妃	40	
・見て触って楽しむ万華鏡 -----	色摩 理恵	41	
・知育布絵本 -----	田中 滯	42	
・数字の絵本 -----	山田 実穂	43	
・木製パズル -----	山梨 理恵	44	
・わくわく ほんだな -----	米谷 文直	45	
○あとながき -----	副校長	近藤 健一	

理論編

情動調性と教材・教具を考える Ver. 2

— 子どもの発達における情動調整の役割 —

吉井 勘人

(障害児教育講座)

人が生きる上でなぜ情動調整は大切なのか？

夏の暑い日、出張で都内に行った時のことである。私は長い時間歩いてようやく電車に乗り、汗を拭き、さて、座席に腰をかけようかとカバンを下ろしたところ、斜め後ろから私より年上の女性が、さっと私にぶつかりながら前に入り込み、私の座ろうと思っていた席にさっと座った。私は彼女のあまりに素早い動きに驚き、しばらく啞然として彼女を見てしまったが、その女性は私の視線を気にすることもなく、涼しい顔でスマホをのぞき込んでいる。私は、一瞬、苛立ちを感じたが、「仕方がない、今日は暑い（私は暑い日にはちょっとしたことでイライラしてしまうことがある）。この人も暑さや疲れから私と同じように、早く座りたかったのだろう、こんなことはよくあることだ。次の駅まで 20 分、立っていればダイエットにもなる」と思い、窓の外に目をやった。

情動には強度や持続時間がある。例えると、それは波のようなものであり、常に揺れ動いている。上記のエピソードでは、ネガティブな情動が一瞬私の中でものすごく高まったが、おそらく数秒で、それは穏やかな波に変わり、私は心の平静を取り戻している。そこでは、私は自分の中で「苛立ち」が生じたことに気づき、その要因を状況（暑さや疲れ、相手の内面など）と関連させて捉え直し、その出来事に対して再度ポジティブな意味づけをするといった対処を行っている（また、車内の冷風により汗が引いたといった体温の変化も関係している）。そのおかげで、私は、痲癢を起したり、大声をだしたり、暴言を吐いたり、落ち込んだりすることなく、電車に乗って目的地まで着くことができた。このように、「個人がなにかしらの目標を成し遂げるために、情動反応をモニター、評価、修正するための内的または外的なプロセス」は、情動調整 (Emotional Regulation) と呼ばれる。情動調整には、大別して、自己調整 (Self Regulation) と相互調整 (Mutual Regulation) の 2 つのタイプがあるとされる (Prizant, Wetherby, Rubin, Laurent, and Rydell, 2006)。自己調整とは、人がストレスフルな状況に置かれた時に、自分で自分自身の情動を落ち着かせたり、気分を調整したりする自己始発的な行為である。一方、相互調整とは、人がストレスフルな状況に置かれた時に、人とのかかわりを通して情動を落ち着かせる方略である。他者からの援助に応じてそれを受け入れたり、また、他者に援助を求めたりする行為がそれにあたる。先述したエピソードでは、私は自己調整をしたことにより、電車に乗って目的地に向かうといった目標を達成できたと理解できる。

それでは、私たちが社会生活を営む上で情動調整には、どのような役割があるのでしょうか。以下では、3つの観点から論じていく。

①子どもがよりよい学校生活や社会生活を営むためには、積極的参加（active engagement）を行うことが重要になるといわれる。積極的参加とは、学校生活でいえば、授業への参加、課題への従事、指示への応答、課題解決、コミュニケーション、仲間関係の形成・維持などの幅広い概念である。このような積極的参加ができることで、個人のウェルビーイングは高まるといえるであろう。この積極的参加のための重要な基盤の1つが、情動調整である（Prizant et al.,2006）。例えば、着席しながら授業で教師の話聞いて学ぶためには、時に、学習内容がわからない不安や苛立ちの情動をコントロールすること（わからない点について挙手して質問するなど）が必要になるであろう。また、授業中に疲れから低覚醒状態になり、ぼーっとしてしまう際には、肩や手指を動かすなどして自分の情動的覚醒レベルを高めることが必要になる。このように授業への積極的参加を1つ例にしても、情動を微調整することや時に大きく調整することが必要になるといえる。更に、対人的葛藤や意見の食い違いが生じやすいコミュニケーションや仲間関係では、このような調整能力はより必要になると考えられる。また、仲間との関わりでは、ネガティブな情動だけでなく、他者と喜びや達成感を共有するといったポジティブな情動を調整する力も人間関係を維持する上で大切になるといえる。このように、情動調整は、子どもの学校生活への積極的参加のための基盤的能力になっていると考えられる。

②世界各国の教育施策といった、より広範な視点の中での情動調整の位置づけについてみていきたい。民主主義を原則とする35か国の先進諸国が集まる国際機関としてのOECD（経済協力開発機構）では、グローバル化の時代にあって、経済、社会、環境の諸問題に取り組んでいる。OECDは、世界各国の施策・実践・研究を総覧して整理し、子どものウェルビーイングや社会進歩につながるスキルとして、社会情動的スキル（Social and Emotional Skills）の重要性を提唱している（経済協力開発機構,2018）。社会情動的スキルとは、非認知的スキルやソフトスキルなどとしても知られるが、「目標の達成、他者との協働、感情のコントロールなどに関するスキル」である。OECDの報告における社会情動的スキルでは以下の点が強調されている。

- ・子どもが、人生において成果を収め、社会進歩に貢献するためにはバランスのとれた認知的スキル（リテラシーや計算能力など）と社会情動的スキルが必要である。
- ・社会情動的スキルは、多様な社会的成果に大きく影響している。社会情動的スキルの向上は、肥満の減少などの健康面、抑うつ減少、反社会的行動の抑制、主観的ウェルビーイングの上昇などに対して大きく影響している。

このように社会情動的スキルは子どもがその人生をよりよく生きていくための必要不可欠なライフスキルであると理解できる。社会情動的スキルの中には、情動調整という表現こそ用いられていないものの、肯定的感情や否定的感情の適切な表現方法を学び、ストレスや欲求不満を制御するといった「感情のコントロールスキル」がそれに該当する、あるいは、それに近接した概念として位置づけられるであろう。従って、感情のコントロールスキルと情動調整が関連しているという視点にたてば、社会情動的スキルの中の一要素として情動調整を積極的に学習することが重要になると考えられる。

③子どもの情動調整の不全は、不安障害、接触障害、パーソナリティ障害、心身症などの精神的健康問題の発症と関連しているという指摘がなされている（佐藤・藤田・宇野,2013）。乳幼児期の子どもは、ネガティブな情動を表出し、それを養育者に受容やケアされることで相互調整の方略を学習し、他者へのアタッチメントや人への安心感、生産的で前向きな人間関係を形成していく。一方で、ネグレクトや過剰に「良い子」を求めるなどの大人の不適切な関わり方は、子どものネガティブな情動表出とその調整を抑制し続けることになる。その結果、子どもは情動調整の発達を阻害されるだけでなく、安定した人間関係の発達に問題をもつ可能性がある。すなわち、アタッチメント障害にみられるような、活動への意欲の減退や良好な人間関係を形成することの永続的な困難さといった深刻な問題へとつながる可能性があるといえる。

以上より、情動調整は、学習への積極的参加の基盤的能力であること、社会を生き抜くために必要不可欠な社会情動的スキルの一要素であること、そして、情動調整が阻害されることは、精神的健康やアタッチメントの形成にネガティブな影響を与える可能性があることについて述べた。

最後に、ここでは情動調整の支援について詳しく述べられなかったが、情動調整の能力は、多様な状況下で様々なツール（教材・教具）を通して、その発達を促進していくことが重要であると考えられる。

<文献>

経済協力開発機構（OECD）（編著）．ベネッセ教育総合研究所（企画・制作）．無藤隆・秋田喜代美（監訳）荒巻美佐子・都村聞人・木村治生・高岡純子・真田美恵子・持田聖子（訳）（2018）社会情動的スキル-学びに向かう力-．明石書店．

Prizant, B. M., Wetherby, A. M., Rubin, E, Laurent, A.C., & Rydell, P.J. (2006) The SCERTS Model. A comprehensive educational approach for children with autism spectrum disorder. Paul H. Brookes Publishing Co.

佐藤幸子・藤田愛・宇野日菜子（2013）子どもの情動調整尺度の開発．小児保健研究 72, 525-530.